

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2007年1月)

発表日2007年3月12日(月)

～貿易収支が黒字転化し、2ヶ月ぶりに黒字幅が拡大～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭

TEL : 03-5221-4525

		原数値				季調値			
		経常収支				経常収支			
		貿易・サービス収支		所得収支		貿易・サービス収支		所得収支	
		前年比	前年比	前年比	前年比	前期比	前期比	前期比	前期比
05	10-12月期	13.6	▲ 8.2	▲ 18.6	30.1	15.7	19.5	6.1	12.0
06	1-3月期	18.5	▲ 13.5	▲ 28.2	42.0	▲ 4.7	▲ 9.2	▲ 9.4	3.6
	4-6月期	▲ 3.0	▲ 24.5	▲ 17.4	15.8	▲ 7.3	▲ 16.8	▲ 4.2	▲ 1.9
	7-9月期	11.4	6.0	▲ 0.1	17.6	4.7	5.4	1.0	3.6
	10-12月期	6.2	13.0	11.9	6.2	19.3	54.6	37.9	1.5
06	1月	2.5	赤字	赤字	33.7	▲ 20.6	▲ 18.8	▲ 23.8	▲ 13.3
	2月	10.8	▲ 7.0	▲ 11.8	32.9	3.1	0.4	16.4	5.3
	3月	34.3	6.7	▲ 6.8	58.0	9.6	6.2	2.8	10.9
	4月	▲ 17.7	▲ 59.4	▲ 32.8	12.7	▲ 23.5	▲ 49.6	▲ 27.2	▲ 10.0
	5月	16.8	29.5	11.1	15.8	21.9	122.4	49.8	▲ 6.7
	6月	▲ 6.4	▲ 13.3	▲ 12.2	23.7	▲ 3.9	▲ 31.0	▲ 20.2	15.3
	7月	5.1	▲ 11.8	▲ 8.3	22.9	4.6	23.0	16.1	▲ 4.6
	8月	21.1	361.8	36.2	11.2	▲ 1.6	4.7	2.1	▲ 4.1
	9月	10.9	6.5	0.2	20.3	▲ 7.3	▲ 41.7	▲ 34.8	12.6
	10月	5.2	▲ 36.0	▲ 18.9	36.3	21.9	83.7	54.5	0.8
	11月	21.5	69.0	48.3	▲ 6.6	6.6	51.8	45.6	▲ 16.9
	12月	▲ 5.0	13.2	15.2	▲ 9.0	▲ 2.5	▲ 24.7	▲ 21.3	20.5
07	1月	49.8	-	-	15.8	▲ 2.9	26.1	21.6	▲ 21.1

(出所)財務省、日本銀行「国際収支統計」

## ○ 1月の経常黒字額は前年比+49.8%と減少

1月の経常黒字額は前年比+49.8%の11,944億円(原数値)と2ヶ月ぶりに黒字幅が拡大した。内訳をみると、サービス収支の赤字幅が拡大したものの、ウエイトの大きい貿易収支が黒字となったこと所得収支の黒字幅が拡大したことにより全体として大幅増加となった。

## ○ 貿易収支が特殊要因もあって黒字に転化

貿易黒字額は1,140億円の黒字となった。輸出金額は自動車や鉄鋼が引き続き堅調なことに加えて半導体等電子部品の輸出増もあって前年比+18.2%(前月同+8.6%)と前月から伸びが大幅に拡大した。1月の経常黒字額が大幅に増加した主因として輸出の堅調が指摘できるが、今月は特殊要因による押し上げもあった。すなわち、中華圏の旧正月が2006年は1月だったが、2007年は2月であることから2007年1月は前年よりも休日が少なく、その分輸出が増加していると考えられる。逆に前年よりも休日が増加する2月は輸出が減少することには留意が必要であるが、1月の輸出は堅調だった。

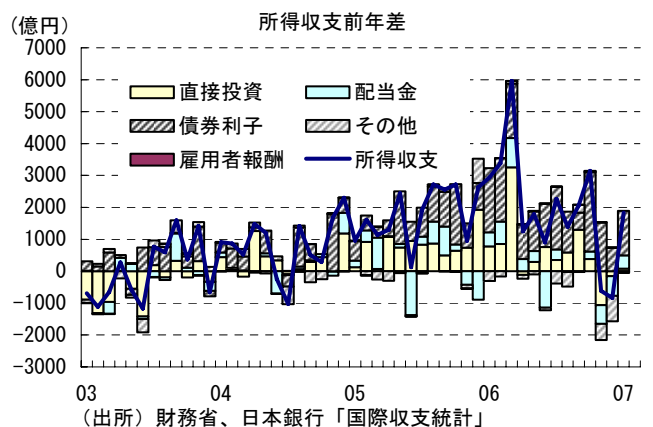
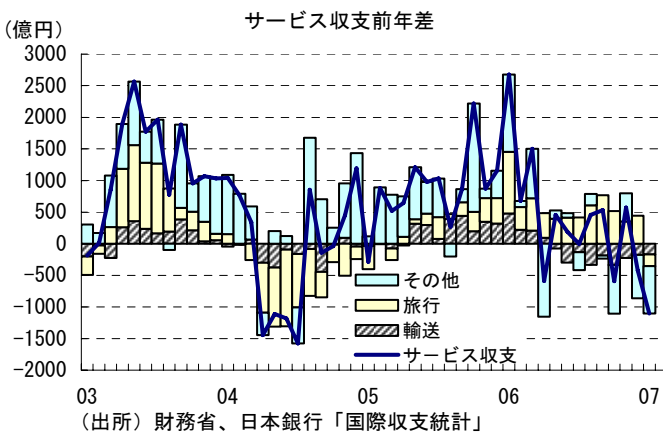
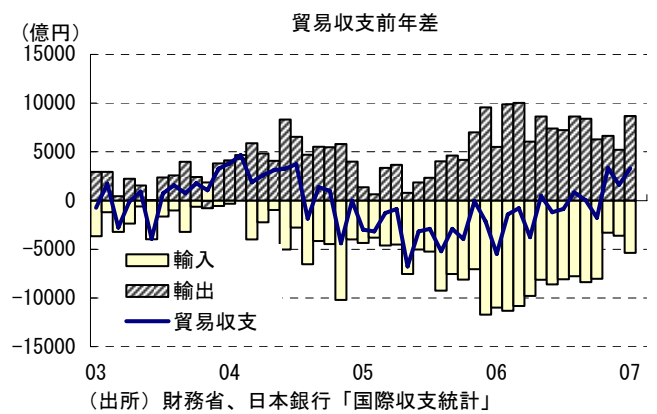
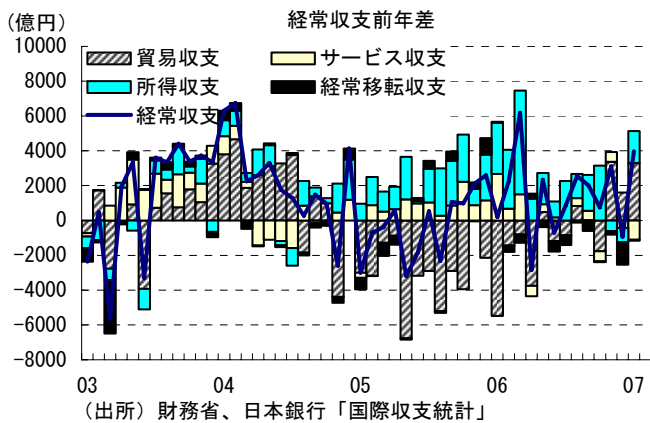
サービス収支は、「その他サービス」の黒字幅が縮小したこと、「旅行」「輸送」の赤字幅が拡大したことから全体として赤字幅が拡大した。旅行収支は日本への入国者数が微増だったが、出国者数が比較的大きく増加したため赤字幅が拡大した。一方、輸送収支は「航空輸送」の赤字幅が縮小したものの「海上輸送」

の赤字が大きく、輸送収支全体としては赤字幅が拡大した。

所得収支は前年比+15.8%と3ヶ月ぶりに黒字幅が拡大した。06年11~12月は日本企業の配当金支払いが増加したことで所得収支の黒字幅も縮小したが、配当金支払いが一巡したことや外国債券の受取利子が対外資産の累増を背景として増加したことから所得収支は前年を上回った。

### ○経常収支の黒字額は先行きも増加基調で推移

先行きについて展望すると、所得収支は対外資産の増加などによって基調的には黒字額の拡大が続くとみられる。2月に日本銀行は追加利上げに踏み切ったが諸外国との内外金利差はなお大きく、外国の証券投資への選好が大きく減退する可能性は低い。急速な円高がなければ所得収支の黒字幅は緩やかながらも増加基調で推移すると見られる。また、貿易収支についても原油価格の下落によって輸入金額の伸びが鈍化傾向にあること、輸出金額が底堅いことから増加トレンドで推移すると考えられる。2月については中華圏の旧正月要因で1月が大幅増となった反動により黒字額が押し下げられる見込みであるが、均してみれば輸出および貿易黒字額の増加基調に変化はないと思われる。総じてみれば、貿易収支と所得収支の二本柱がともに黒字幅を拡大させる見込みであり、経常黒字額は先行きも増加基調で推移すると判断する。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。